

No.	020	—	2001	事務事業名	救急法普及に関する事務	細事務事業名		公的関与	1				
課名	消防課	係名	救急係	電話番号	089-964-5210	メールアドレス	syobohonbu@city.toon.ehime.jp						
事業区分	ソフト事業		事業運営方法	直営	実施計画	非該当	事業期間	年度 ~ 年度					
総合計画	政策目標	第1章 地球と共生する快適環境のまち		政策項目	6 消防・防災体制の充実		主要施策	(4) 消防・救急体制の充実					
事業の対象	東温市民及び東温市に就業している者。				根拠法令	消防法							
事業の目的	最終的	大幅な救命率の向上を図るためには、だれでも救命の応急手当ができるようになる必要があります。			今年度	講習会等において、応急手当の重要性を訴え救急法の普及を図ります。							
活動内容	①	救急法の指導員や普及員の養成を行います。			④	e-ラーニングを利用した講習を推進し、市民が救命講習を受講し易い環境を図ります。							
	②	上級救命講習(8時間)を開催し救命法の普及を図ります。			⑤	上記以外にも短時間の講習会を開催し救命法の普及を図ります。							
	③	普通救命講習Ⅰ(3時間)普通救命講習Ⅱ(4時間)を開催し救命法の普及を図ります。											
成果指標	指標名		計算式又は指標設定理由		単位	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	最終目標				
	普及員講習		回数	参加者数	回・人	目標 1回 15人 実績 0回 0人	目標 1回 15人 実績 0回 0人	目標 1回 15人 実績 0回 0人	100人(累計)				
	上級救命講習		回数	参加者数	回・人	目標 1回 20人 実績 2回 61人	目標 1回 20人 実績 2回 38人	目標 1回 20人 実績 0回 0人	1000人(累計)				
	普通救命講習		回数	参加者数	回・人	目標 50回 800人 実績 43回 782人	目標 50回 800人 実績 43回 521人	目標 50回 800人 実績 0回 0人	10000人(累計)				
予算費目	会計	一般会計			費目名	消防			費				
直接事業費		平成 24 年度決算	平成 25 年度決算	平成 26 年度予算	備考								
	国・県支出金	0千円	0千円	0千円									
	地方債	0千円	0千円	0千円									
	その他特定財源	0千円	0千円	0千円									
	一般財源	79千円	75千円	77千円									
計(A)	79千円	75千円	77千円										
人件費(B)	正職員工数・経費	0.374 人	2,262 千円	0.483 人	2,943 千円	0.339 人	2,038 千円						
	臨時職員工数・経費	0.000 人	0 千円	0.000 人	0 千円	0.000 人	0 千円						
全体事業費(A+B)		2,341 千円	3,018 千円	2,115 千円									
一次評価者	救急係	総合評価点	A	必要性	3	有効性	4	達成度	4	効率性	2	今後の方向性	拡大・充実
項目	評価項目の説明 (一次評価者のコメント)												
必要性	救命率を向上させるためには、バイスタンダーによる救命処置が必要不可欠のため、心肺蘇生法やAEDの正しい使用法を学習することは救命率向上の為に必要です。												
有効性	防災意識の向上と共に市民の関心も高く、市民による救命処置の実施やAEDの使用が増え、救命処置の重要性が市民に浸透しています。												
達成度	救命講習受講希望者には全員実施しており、「救急の日」や「健康フォーラム」等のイベントを通じて応急手当の普及、啓発活動を実施しています。												
効率性	女性消防団員を応急手当普及員として養成しており、救命講習に指導者として女性消防団員を活用する事で、指導員(職員)の負担軽減に繋がっています。												
当面の課題	市民の防災意識向上により、講習会のニーズは増加したが短時間(1時間程度)の講習が多くを占め、普通救命講習(3・4時間)が前年に比べ減少した。そのため、短時間講習に対応出来るよう職員の技術能力の向上が必要となっています。また、老朽化した訓練資器材の更新も必要となっています。												
改計画	訓練資器材は購入計画を立て更新を進め、指導員資格を持つ職員に対しては救急隊員教育の充実を図り知識・技術の向上に努めると共に、e-ラーニングを利用した普通救命講習の充実させ、市民が受講し易い環境の整備を進めます。												
二次評価者	消防課長	総合評価点	A	必要性	3	有効性	4	達成度	4	効率性	4	今後の方向性	拡大・充実
二次評価での指摘事項	災害等に対応出来る救命率を高めるためには、救急法の普及徹底を図る必要があり、指導者の養成と質の向上並びに資器材の更新は不可欠です。												

020	2004	事務事業名	愛媛大学・東温市医師会との連携業務に関する事務及び業務		細事務事業名		公的関与	1					
PLAN	課名	消防課	係名	救急係	電話番号	089-964-5210	メールアドレス	syobohonbu@city.toon.ehime.jp					
	事業区分	ソフト事業		事業運営方法	直営	実施計画	非該当	事業期間	年度 ~ 年度				
	総合計画	政策目標	第1章 地球と共生する快適環境のまち		政策項目	6 消防・防災体制の充実		主要施策	(4)消防・救急体制の充実				
	事業の対象	東温市民及び市内就業者。				根拠法令							
	事業の目的	最終的	脳卒中患者や救急搬送が必要な傷病者に対して、救急隊による的確な観察・適切な病院選定早期搬送を行うことで、医療機関での早期治療に繋がり救命率の向上にも繋がります。			今年度	脳卒中救急患者搬送症例検討会、先進地視察研修を計画し事業を継続します。						
	活動内容		東温市脳卒中救急患者搬送連絡協議会に関する事務・症例検討会等をおこない、本市においての脳卒中患者救急搬送ネットワークの構築を行います。				医学祭への協力や教育学部学生の消防署研修を受け入れています。						
			東温市と東温市医師会の主催する健康フォーラムに参加し、一般市民に対して応急手当と救命処置の重要性について正しく理解していただきます。				医学部学生の救急医療に関する研究に協力しています。(社会医学実習)						
			愛媛大学医学部研修医や新任看護師に対して救命処置の指導を行います。										
	成果指標	指標名		計算式又は指標設定理由		単位	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	最終目標			
		東温市脳卒中救急患者搬送連絡協議会と検討会	年	1回		回	目標	1回	1回	1回	年 1回		
実績						会議1回・検討会2回			会議1回・検討会1回・研修会1回				
東温市と東温市医師会の主催する健康フォーラム参加		年	1回		回	目標	1回	1回	1回	年 1回			
	実績				1回			1回					
					目標								
					実績								
DO	予算費目	会計	一般会計		費目名	消防			費				
	直接事業費		平成 24 年度決算	平成 25 年度決算	平成 26 年度予算	備考							
		国・県支出金	0千円	0千円	0千円								
		地方債	0千円	0千円	0千円								
		その他特定財源	0千円	0千円	0千円								
		一般財源	100千円	75千円	100千円								
		計(A)	100千円	75千円	100千円								
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.127人	768千円	0.131人	798千円	0.131人	788千円					
		臨時職員工数・経費	0.000人	0千円	0.000人	0千円	0.000人	0千円					
	全体事業費(A+B)		868千円	873千円	888千円								
一次評価者	救急係	総合評価点	A	必要性	4	有効性	4	達成度	3	効率性	4	今後の方向性	拡大・充実
項目	評価項目の説明(一次評価者のコメント)												
必要性	東温市にとって、愛媛大学医学部や東温市医師会との連携協力を継続していくことは、救急医療体制の充実と安心につながっています。												
有効性	医療機関との連携によって住民サービスの向上につながっています。												
達成度	救急業務自体は、医療機関との連携が良好で、有効に実行されていますが、当初から愛大脳卒中センター受入れ時間については時間制約等が続いており苦慮をしています。												
効率性	緊急性・重症時の近隣医療施設での対応に関して、適正で効率的にできています。												
当面の課題	当初から、愛大脳卒中センターの救急体制は医師不足等による患者受入れ時間に制約があるため、脳卒中に対応出来る二次病院と連携を図るとともに、リハビリを含めたトータル的な治療体系を構築する必要があります。												
改革計画	医師確保等が厳しい現状で、更なる連携強化に努めるには、市からも大学へ医師の確保支援の拡充が必要であります。また、医師会との協力体制が今後も必要であり、事業成果を東温市民へ還元するため脳卒中の市民公演を今後計画しています。												
二次評価者	消防課長	総合評価点	A	必要性	4	有効性	4	達成度	3	効率性	4	今後の方向性	拡大・充実
二次評価での指摘事項	医師の助言により、適切な搬送病院(脳卒中)を選定して、傷病者の回復に努めてください。												